

労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2019年9月26日発行

No. 562号 (第51期 7号)

〒454-0055

名古屋市市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

各会の夏合宿報告：名古屋山岳同志会 北岳バットレス・白峰三山



参加者：3名 2019年8月10日～13日

今年の課題、念願の北岳バットレスと白峰三山縦走と欲張りな計画を合宿としてたてて3ヶ月、初期はクライミング中心に練習を積み、夏季に入ってから天候不順により歩荷を中心とした訓練もままならないメンバーもいる中、合宿当日を迎えました。

<1日目>

・ 広河原ー白根御池ー北岳肩の小屋。災害により不通だった広河原へのバスが合宿直前に運行再開し、南海上で停滞して遅々として進まない台風のおかげで天候も崩れず、幸先よく合宿がスタート、始発のバスから降りると、沢山の人人人。(次項に続く)

《目次》	各会夏山合宿報告 名古屋山岳同志会「北岳バットレス・白峰三山」	1
	半田ファミリー山の会「大キレットを越えて」	4
組織部	第6回 組織担当者会議 報告	5
〃	同志会の会員拡大と活動報告	6
教育部	9/4(水) 第4回教育担当者会議を開きました	7
遭対部	8/30、夏山合宿遭対報告会議を開きました	8
〃	9/13、第51期第3回遭対担当者会議の報告	8
女性部	第5回女性のつどい報告 / 山筋ゴーゴー体操講習会のお知らせ	11
	登山時報のすすめ	11
	カレンダー	12

(前項からのつづき)

野呂川の吊橋を渡るころには、北岳バットレスの雄姿が！ 混雑は必至と覚悟しながらいざまずは肩の小屋へ。勾配が緩やかになって樹林を抜け暑さを増した白根御池で南アルプス天然水をがぶ飲み、生き返る。50人の高校生集団を追い抜くが、清々しさに元気をもらった。ここから急登、階段、岩稜歩きで肩の小屋到着。小屋に近い幕営条件の良い場所は埋まっており、なんとか幕営、時間はかなりあったが、体力温存でまったり午後を過ごす。明朝のバットレスに向け早めに夕食、ガスが沸いて夕景も見えそうもないので即就寝した。

<2日目>

・ 北岳肩の小屋ー北岳ー八本歯のコーバットレス下部。

深夜2時に起床、星は綺麗に瞬いて、今日も天候はまずまず。パン等で朝食すまし、とりあえず北岳越え、ヘッドで岩稜歩きは気が抜けない。真っ暗で誰もいない北岳に登頂、日本第二の高峰にもかかわらず感慨はないが人がいないのは貴重な経験。午後には再度ここに来るぞと思いつつ後にした。八本歯のコーから急下降の階段地獄、沢筋に降りる頃には空が白んできた。白根御池から登ってくる明かりが見えた。時間的におそらくバットレスに向かうパーティー、とにかく何番目に取付くかは登攀時間に大きく影響する。今回我々は荷揚げを前日に行い、北岳を越え下るといっておよそ掟破りなアプローチをとった。途中で薬師岳に昇る日の出を拝みつつ一般道を離れ、d沢から少し迷ったが、昨年取付き迄きて天候不順で撤退していたため、見覚えのある景色d沢中間稜に出て明瞭なお花畑の道を登り、Dガリー大滝下部の取付き到着。果たして先のヘッドンパーティーは未着、二番手スタートの好位置に付けた。

・ バットレスー終了点ー北岳山頂ー肩の小屋

装備整え、意気揚々とスタート。出だしが少しだけいやらしいが問題なし、残置は少ないが、テラスまでロープいっぱい使って2ピッチ。そのままロープレスで上がれそうだったが、少し上がり、傾斜が増したところでロープ出してdガリーを登攀。1ピッチ上がって4尾根へはそこから少し下り気味の踏み跡を右にトラバース、落石すると下はスタート地点にクライマーがいるので要注意、確保なしなので、結構怖かった。実はこの後崩壊箇所手前から右上バンドを上がればピラミッドフェース取付き、我々はトラバース後、尾根を回り込んで、ガラガラのかガリーに出て大きな4の表示の岩。簡単な岩場を登り、やっと4尾根取付き。ここまでは後続パーティーとつかず離れず。

1ピッチ目斜め、広めのきれいなクラックはピン少なくカム使用。2ピッチ目は私がリードリッジ35+10m「白い岩のクラック」



下に。3ピッチ目白い岩のクラック 35m 4ピッチ目 10m ほどで三角形の小垂壁、少し辛いがこの場面で、特小レシーバーから、今日肩の小屋で合流するAパーティーから「がんば」のエールが。まるでその場にいるかのような奇跡的なタイミングの声援に俄然奮闘、今回一番の核心かと思える箇所をクリア。そのままリッジをたどりマッチ箱の頭 40m。 此処まで来るとあと少し。チェックタイムにも余裕で、ピラミッドフェースを一部カットしているせいかあっけなくマッチ箱についた。このころからガスが湧いてきて残念ながら高度感がなくなってきたが、暑さもしのげ、幻想的な雰囲気の中登攀を続けることとなった。4尾根に入り後続にプレッシャーを感じることもなく順調すぎて怖いぐらい。5ピッチ目 懸垂下降 10m くらい。6ピッチ目は私のリード、クラック沿からスラブ、リッジ 40m、本来は 10m ほど手前でピッチ切るのがセオリーだが、おかげですこしスリリングなリッジを楽しめた。7ピッチ目 枯れ木テラスを過ぎ城塞ハング下まで。ナイフリッジを右からトラバース、高度感満点（のはず）。ロープの流れ悪くなるので、6ピッチ目を2つに切ってナイフリッジの手前からスタートした方が良いと感じた。ナイフリッジ前後の渡りも注意。枯れ木テラスは見事に崩壊して覗き込むと少し怖かった。不安定なビレイポイントから8ピッチ目はラスボス城塞ハング、セカンドが締めのカムニーを登る。短い楽しい。そして終了点、感無量、意外にあっけなかったとは皆の感想だったが、リードもある程度分担し3人で協力して成し得た充実感に満たされた。少し上がって広場で休憩。広場からは左気味に上がる踏み跡はビクトリーロード、この時期、お花畑が素晴らしく、我々を祝福しているよう、全くフール・テンションかかることもなく無事登攀できたことは準備・計画の成果だと感じた。やがて15分程で北岳南側の一般登山道にでる。一般道に合流してからは、時折バットレス行ってきたのかと声かけられ、ルート of 知名度を感じるとともに、少し誇らしげな気にさせてもらった。そして今日二度目の北岳山頂、景色はあまり望めなかったが、今朝とは全く違う景色に見えた。肩の小屋に戻ると小屋前で旧会員の3人とぼったり、ほどなくAパーティー白峰三山縦走組も到着、再開とここまでの健闘を称え、祝杯を挙げ盛り上がった。

<3日目>

・ 肩の小屋ー北岳ー間ノ岳ー農鳥小屋ー農鳥岳

出だしヘッドで北岳山頂手前で御来光を迎えたが、この山行3回目の北岳山頂からは富士山も



拝める好天に恵まれた。合流した合宿Aパーティーと併せて10名で日本最高の3000m稜線をこれから行く間ノ岳、農鳥岳から、槍穂高はじめ北ア、八ヶ岳と最高の展望とともに賑やかに踏破、体力差があり苦しみながらなんとか登るメンバーに登山再開した頃の自分を重ね、なんとか踏破できたのが何より、合宿の良さを感じた。

大門沢下降点付近の二重稜線はガスだと迷

いやしく、黄色い鐘吊鉄塔が目印。

<4日目>

いよいよ最終日、八丁坂の急降後、沢に。何度か渡渉、樹林のなだらかな気持ちいい路。林道に出て奈良田に到着。長かったー。

結果大成功で終わることが出来た。初日に肩の小屋まで荷揚げして幕営、アタック日は軽装で八本歯から下って取り付く掟破りなアプローチが功を奏したか、二番手でスタート出来たこと、10時過ぎにはガスがかかり、暑過ぎなかったこと、思いのほか混まなかったことなど、条件にも恵まれた。合宿前は台風の影響も心配で代替案も苦慮する中、4日間晴天だったことは、非常に良かった。バットレスはスムーズに登攀、意外にあっさり終わってしまったが、昨年取り付きまで行きながら雨天で断念しただけに、1年越しの宿題を回収できた。テント装備の縦走はキツイけど、久しぶりの3泊山行は大満足でした。

半田ファミリー山の会 大キレットを越えて

2019年8月2～4日

半田ファミリー山の会第39期夏山合宿を、2019年8月2日～4日までの二泊三日、北アルプスの北穂高岳周辺で実施しました。参加メンバーは2パーティー10人。

5回のトレーニング山行を実施し、6回の打ち合わせの中で、県連の合宿連絡会議から逆算して計画を練り、メンバー各自が分担した任務の中で、夏山の気象、熱中症、装備、山域研究など、課されたテーマをレポートし、共有し合うなどの取り組みを行って臨んだ夏山合宿。

第一日目は新穂高温泉～槍平小屋で幕営、第二日目は槍平～南岳小屋～北穂高岳南稜で幕営、最終日は北穂高岳から潤沢経由で上高地に下山しました。天候は初日の午後から夜半にかけて雨が降った以外は晴れ。三日間とも、行動中は天候に恵まれました。南岳新道の空中散歩、大キレットのスリリングな通過、ダイナミックな岩稜歩きと雄大な眺望を苦しみながら楽しんできました。二日間のテント生活、南岳新道の登り、大キレットの通過などの共通の体験は、「共通の体験を通して、生活・行動技術の習得・習熟による会員の登山力量のアップ、会の登山水準の底上げを図る」という今回の合宿の目的に照らして、それなりの知識・技術や経験を積むことができただけでなく、今後のそれぞれの課題も明確になった合宿になったようです。これからの山行に期待したいものです。（文責：洞井孝雄）

〈記録〉

8月2日（金）晴れ後雨

05:00 半田発

08:25 新穂高センター着

09:20 新穂高センター発

10:15 穂高平山荘着

11:04 白出出合通過

12:30 滝谷出合

13:44 槍平小屋着、設営

18:30 就寝。夜中、断続的に雷雨

8月3日（土）晴れ

03:15 起床

04:30 槍平小屋出発

04:50 南沢徒渉。登山道に入る。

06:58 森林限界付近、休憩

07:17 救急箱(2600m)。南岳西沢コル木道の稜線歩き、



07:59 鉄梯子でカールの斜面に降りる
09:30 南岳小屋着
09:57 発
10:02 大キレットの標識。急勾配降りる
12:27 長谷川ピーク通過
馬の背を緊張しながら進む
13:06 A沢のコル通過
13:43 飛驒泣き通過
15:33 北穂高岳山頂
16:00 南稜テント場着、設営、
19:00 就寝



8月4日（日） 晴れ

03:45 起床 05:00 出発 常念岳の日の出を見る。南稜を下降
07:05 涸沢小屋通過 07:13 涸沢ヒュッテ着 小休止 07:31 発
08:35 本谷 09:35 横尾着 10:36 徳沢着 11:31 明神着 12:22 上高地バスセンター
タクシーで鍋平へ 13:13 鍋平駐車場着

組織部 第6回 組織担当者会議 報告 2019年9月10日

県連事務所：午後7時～

出席者：あつた（山田）、ありんこ（榊原）、犬山（井川）、春日井（弘中）、くらら（山本）、
じねんじょ（森）、同志会（吉川）、7山岳会、7名出席

1) 一般登山講座、次年度の準備

- * 実行委員会形式として、担当者会議と日程を別建てとする。
- * 実技山行に一般会員の参加はスタッフとして参加することとする、前年度の受講者が参加希望の場合は各会の山行として参加する。
- * 組織担当者会議の交流山行と下見を兼ねて11月9日（土）に設定する。坂祝～明王山～坂祝ルート。
- * 講座のスタッフと、CL等を募集しますので、参加下さい。
- * 案内チラシを労山の宣伝などに活用する。藤原岳登山口休憩舎・猿投山登山口休憩舎などの管理主体を調べて、案内チラシを置けるようにする。
- * 受講生の意見の集め方——数量的に把握するにはアンケート形式が良いが、これだけでは掴みきれない部分があるのではないかと、ということで感想文を集めることも検討する。
- * 三重労山の組織化に関して案内チラシを三重山好に送付し、現在2名の応募があった。また、実技山行実施場所の検討も必要となる。

2) 会員拡大の取組み・対策

——現在の登山界、登山者の状況に見合った組織拡大と登山講座のあり方について検討が必要。

——県連連盟員の組織状況は、別紙。

* 労山愛知の編集方針——各会の登山講座の取組み、会員拡大の取組み、活動の状況、会集会に訪問の報告、周年行事から各会の教訓を学び記事にするなど、各会が労山愛知紙上で交流できる、或いは教訓を広げる内容を方針とする。下記、その一環として同志会の活動を会より報告します。

4) 代表者会議への報告(案)——会議で意見を出し合いました。

5) 登山時報の普及について——労山愛知紙上に登山時報の記事紹介を掲載し、拡大につなげる。

名古屋山岳同志会の会員拡大と活動報告

同志会の会員拡大と会の活動について報告します。会創立は1971年4月。

会員拡大は2010年新入会の会員によりHPがリニューアルされ、これに契機として多くの会員の入会を迎えてきました。今年1月からの入会者は20名、休会者や転勤者からの復会と、退会者もあり8月末現在の会員数は115名で2月末の103名より12名の増加となっています。会員数は、長い間30名～50名で低迷、推移してきましたが、2014年に100名台に到達し、以後これを維持してきました。

新入会員のほとんどはHPを見て問い合わせがあり、で毎月1回の新入会員向けガイダンス(見学者説明会)での説明を受けて、同志会に志向が合うようなら入会につながっています。今年に入ってから説明会参加者は38名です。HPのリニューアルにより、会の活動の様子や雰囲気が伝わり易くなったことが、会員増加の大きな要因となっています。是非一度同志会のHPをご覧になり、参考にしてください。HPでは合宿、定例山行、訓練山行などを中心に自主山行なども含めて楽しい雰囲気の写真や山行の記録の掲載に努めています。また、山行が行われた後間を空けずにその記事をアップすることも重要だと考えています。

会員拡大は概ね以上ですが、会の発展には安定的で日常的な活動の下支えと、組織運営の整備、考え方の発展がされてきたからこそです。月例の集会は第一火曜日に全体集会(ミニセミナーを含む)、第三火曜日は各専門部会と教育セミナーの実施、第四火曜日に運営委員会となっています。教育セミナーでは主に会の教育部から若手会員が講師を務め、ベテラン会員がフォローする、という形式です。会員は準会員を除いて全て、教育部・自然保護部・山行部・遭難対策部・組織部などいずれかの専門部に所属することになっていて、会員皆がその力量や条件に応じて会の活動参加し、支え作っていく組織体制となっています。会長以下運営委員会は各専門部と会全体の取りまとめの役割を担っています。このみんなで会を支えになっていくことは会運営上でも、各会員の会活動への参加と成長の面でも大きなファクターを占めています。また、運営委員会や専門部では新入会員もベテランも誰かれなく自由に意見を述べ合う気風が保たれているのも、重要な点になっていると考えます。

会員の自主性の尊重と主体的な会員を育てることは、ひとり一人の会員にとってはその山行活動にとっても会活動への参加の面でも、その成長の必須要件でしょう。会にとっても各専門部を通じて会活動を支え、山行活動を活発にする上でのファクターであったと言えます。

山行活動では月例での定例山行は第三土日に3本生まれ、その内の1本はレベルアップ山行として長めの行程の山行やクライミングや沢登りの基礎的な山行も生まれています。定例山行のC

L. S Lは比較的入会歴の浅い会員が務め、山行経験の豊かな会員がA Sとして助言等に当たっています。年間の山行活動では2018年度の定例山行23件、春夏冬の合宿を含む各部の企画山行が58件、自主山行などを含めて年間623件となっています。山行部の企画山行では近年、4月の新人歓迎山行、7月夏山集中山行、12月冬山集中山行が実施され、会員の半数前後が参加して活況を呈しています。

山行内容としては従前より特定の山行形態を進めるとか偏ることのないようにしてきましたが、それが近年に生きて、低山ハイキングから縦走、岩登り、沢登り、積雪期の登山、バリエーションなど、総合的な山岳会に発展してきたと言えます。（文責者：吉川）

教育部 9/4(水) 第4回教育担当者会議を開きました

日時：9月4日（水）19時30分～

参加者：半田F（新海）、くらら（吉田）、同志会（吉川）、あつた（谷本）、ASC（安江）、ありんこ（榊原） 計 5山岳会 5名

(1) 氷雪技術講習会の講師分担について

若駒から講師担当ができない旨の連絡がありましたので、前期講師実施のありんこで担当することとしました。あつたの講師分担分については、次回報告をしていただくこととなりました。

(2) 氷雪技術講習会の一般参加者用の案内について

7/6の理事会で氷雪技術講習会への一般の方の受講が承認されましたが、8/31の理事会において、各会代表者会議で確認後にしようということになりました。

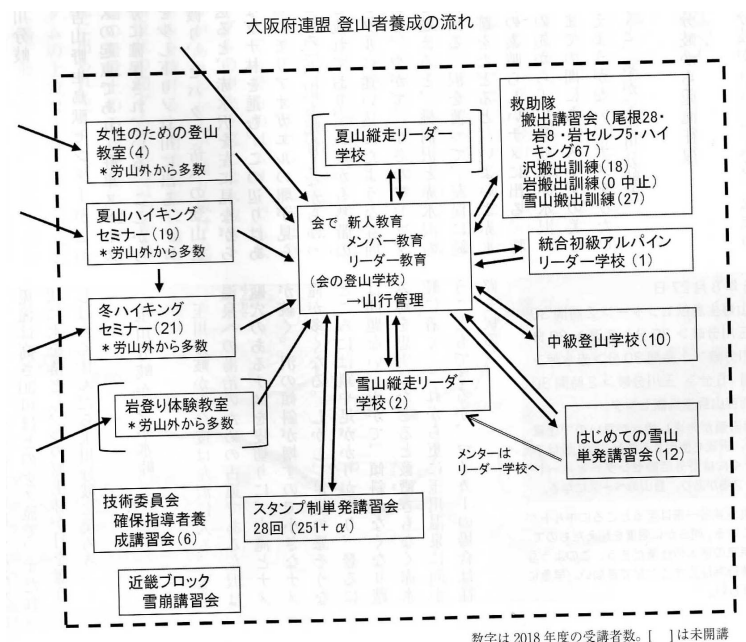
確認後の案内となるため、案内期間が実質2週間くらいしかなく、多くの参加は望めないが、意義を理解して取り組むこととしました。

(3) 教育活動の交流について

教育面での会と県連との関わり方や県連全体の教育体系についての議論のため、登山時報7月号に掲載された大阪府連の教育体系を参考に、愛知県連でどうしていくことがよいか議論しました。教育体系を支える教育活動（方法、体制等）をどのようにしているか、

各会の教育担当者で知り合いがいる大阪府連、京都府連、神奈川県連の実態を把握することとなりました。

次回、第7回教育担当者会議を2019年10月9日（木）に19時30分より開きますので、各山岳会・コーチ会議から奮って参加をお願いします。



遭対部 8/30、夏山合宿遭対報告会議を開きました

2019年8月30日（金）19：30から、第51期夏山合宿遭対報告会議を開き、8山岳会15名が出席しました。【出席者】小栗・洞井（半田F）、西尾・吉田剛（くらら）、添田（ありんこ）、松本（東三河）、鷺見（スルジェ）、樋江井（若駒）、梅村・西野・廣田・塚田・前田・竹又（同志会）、望月（ふわく）。

当日提出された山行報告書は、6山岳会15件（内、1件は名古屋山岳会から文書報告）。○合宿を取り組んだ山岳会から、報告を受け議論しました。主な点を掲載します。

・キレットなどの通過の際、最初の1ピッチ、ロープ確保したが、時間がかかりすぎた。一連の操作についてメンバーは勿論L、SLも習熟すべき。

・アブが多かった。虫よけスプレーは有効。

・暑さのため体調を崩す参加者がいたが、水分を補給しほぼ計画通りの時間で歩くことができた。

・鑓温泉への下り、鎖場から鑓温泉で岩が滑りやすく、鎖場でのビレイ、三点確保は重要。

・鑓温泉－猿倉間の雪渓、やや傾斜の大きい箇所ではアイゼンを装着した方がいい。

・危険個所での撮影禁止を徹底すること。

・旭岳山頂にシュリング、カラビナ置忘れ（出発時の忘れ物チェック不足）。

・隊列変更：力量のあるメンバーを前後に配置して安全を図った。

・三つ峠を過ぎ稜線ルートと別れ、お花畑ルートには行ってしばらく行ったところでSさんが熊を目撃した（10m）。熊はすぐ逃げ他のメンバーは見えなかった。

・別山で、熊を目撃したという情報があった。

・本来、安曇野ICで降車すべきところ通過し、諏訪ICで引き返した。

・北岳バットレス、ロープは60mの方が良かったかも。

○ヒヤリハット

・北穂小屋直下、先を歩いていたメンバーが、岩くずのたまった路肩に足を置き、落石（15cm角）

・北穂から涸沢への下山中、Nさんがつまずいた拍子に右足向こう脛を岩の角にぶつけ出血、バンドエイドで応急処置。黒沢ヒュッテでガーゼを当てテープで押さえる処置をした。その後の歩行に大きな支障はなし。

・大雪渓（パーティの100mほど上部）で落石（30～40cm）発生した。

・小屋到着後しばらくして高山病（頭痛・吐き気）と思しき症状が出たが、翌日回復。

・立山（雄山～富士ノ折立）は、ザレ場、ガレ場が多くつまずき転倒発生。

・2日目、夕食のカレーうどんの麺を忘れた。

・テン場到着が遅れたため、テントを張るのに苦労した。

・北岳バットレスアプローチ中、脛を怪我した。

○全体として

・ヒヤリハットはあったものの、事故がなくてよかった。

・遭対連絡会議に欠席したが、その後報告書を提出した会が2会あり、その会も報告会議に参加しました。

9/13、第51期第3回遭対担当者会議の報告

2019年9月13日（金）19：30から第3回遭対担当者会議を開き、10山岳会10名が出席しました。【出席者】天池（アリス）、加藤（ちんぐるま）、春日井（みどり）、洞井（半田F）、

西尾（くらら）、松本（東三河）、高井（春日井峠）、室岡（じねんじょ）、神谷（ASC）、望月（ふわく）。

議題1、事故報告

No.6-①、No.7-② クライミングで複合事故

【事故発生日時】2019年6月16日（日）10：00ころ【山域・山名】美濃加茂・岩場

【事故者】男性A 62才、男性B 59才【受傷の程度】A：打ち身、擦り傷程度、B：頸椎捻挫

【事故の概要】①L（事故者A）がトップロープを構築しようとしたが、ロープが足りないので3ピッチのビレイ点の上部7m地点に予め補助ロープを置いておいた。支点を構築し補助ロープの置いてある場所まで下降した。結束が不完全なまま、懸垂下降したためロープがすっぽ抜けフールした。②ビレイヤー（B）はL（A）を避けずに衝突した。その後、両者は絡まるようにバンド状のビレイ点に転落した。Bは事故直後やや反応が鈍く軽い脳震盪、首に痛み、左前腕に擦過傷。Aは、打ち身、擦り傷程度で処置不要だった。ショック症状による体温低下を防ぐためレインコートをかけ、居合わせた看護師中心に状態確認、異常は見られなかったが5分間ほど安静にしていた。休憩後、自力で懸垂下降し、2名が付き添って病院へ。頭部のCT検査を受け頸椎捻挫（軽い鞭打ち症）と診断された。

▲反省・指摘など

- ・どこに支点を構築したか？
- ・メインのロープをかけ、末端処理は？
- ・ロープはシングルか、ダブルか？

No.8 雪渓で滑り肩を痛めた

【事故発生日時】2019年7月2日（火）9：20ころ

【山域・山名】中越・守門岳 【事故者】①女性77才 【受傷の程度】右肩脱臼、

【事故の概要】登山口を6：48出発。ブナ林の急登を登り、9：10三ノ芝上部の雪渓（2m）をキックステップで登っている途中、9：20、事故者のキックが甘く滑落し、1mほどの笹藪下で停止。その際に右肩に痛みがあり負傷部位を見て脱臼を疑ったが歩けるため、急峻な道を戻るよりコースの先へ進む方が安全と判断し、三角巾で固定した後、前進。10：58守門岳に着く。11：35出発。（No.9へ続く）

No.9 粘土質の下り道で滑落、大腿部を痛めた

【事故発生日時】2019年7月2日（火）12：30ころ 【山域・山名】中越・守門岳

【事故者】②女性77才 【受傷の程度】左大腿骨転子部骨折

【事故の概要】※この事故は、No.7の事故と同一山行で発生しました。したがって、概要もNo.8の続きとして読んで下さい。

12：30大岳分岐から100mほど下った地点で3番目を歩く事故者②が雨を含んだ粘土質の下り道で足を滑らせ約2m滑落。意識は明瞭だが左脚の激痛を訴え歩行困難。12：41警察に救助要請。ヘリは視界不良のため新潟空港に待機。地上隊（保久礼コース10人、二口コース9人の2隊）が同時出動。待つ間②をツェルト等で保温し励ます。日没（19：08）による二次遭難を避けるため、3名が13：40下山開始（14：00警察からも指示あり）。15：05歩ける（No.8の事故者）①にも下山指示があり、1名付き添い下山開始。15：57二口コースの救助隊が到着し②の搬出準備。16：29②下山開始。16：45大岳鞍部手前の小ピークに移動後ヘリ再要請。17：15県警ヘリにより②救出。18：30防災ヘリにて、①救出。残りのメンバーも19：40保久礼登山口に下山した。搬送先の病院で②は「左大腿骨転子部骨折」と診断され、翌日手術、4週間ほど現地に入院の予定。①は「右肩脱臼」と診断され整復し1日入院。

▲反省・指摘など（No.8とNo.9を合同して）

- ・アイゼンを用意して行ったが、宿の主人から不要と聞き宿に置いて行った。

- ・軽登山靴だったので、氷に近い雪渓にキックステップをするには不十分だった。
- ・細引きを忘れた。
- ・高齢の事故者に、配慮が足らなかった。

No. 10 木道でスマホで撮影中、段差に気づかず転倒、肩負傷

【事故発生日時】2019年7月14日（日）8：20ころ【山域・山名】上越・平が岳

【事故者】女性 71才

【受傷の程度】左肩亜脱臼

【事故の概要】玉子石分岐から5分ほど歩いたところで、木道で花の写真を撮りポシャットにしまいながら歩き、木道の段差に気付かず、躓き転んで左肩を打撲。外傷はなかったが肩が痛く、宿に戻り湿布薬を張った。帰宅後、医者に亜脱臼と診断された。

▲反省・指摘など

- ・「ながら---は」、絶対やめること。

No. 11 濡れた岩で足を滑らせ、頭部を岩にぶつけ負傷

【事故発生日時】2019年7月22日（月）14時ころ【山域・山名】南ア・間ノ岳

【事故者】男性 69才、【受傷の程度】頭部左の頂上部4cm切創、深さ5mm、6針縫合

【事故の概要】間ノ岳山頂から農鳥小屋に向け200mくらい下ったところ、登山道の下りで足を滑らせバランスを崩したときに前方の目の高さに突き出ている岩に頭頂部をぶつけた。岩が平だったので傷は小さく出血も少なかった。農鳥小屋に看護師がいたので止血処置をしてもらった。23日20時、刈谷ハイウェイオアシスで下車し、すぐ救急病院へ行き縫合してもらった。翌日診察し異常なし。

No. 12 下山中に足にけが

【事故発生日時】2019年8月8日（木）12：30ころ【山域・山名】越後・巻機山

【事故者】女性68才、

【受傷の程度】左くるぶしの下の骨にひび

【事故の概要】10：45山頂から下山開始。事故者は12：21合目を通過し暫く降りたところ（平らになっているところ）で、あつという声を上げ、足首を捻挫したのではと訴えた。その場で暫く痛みが治まるのを待ってから、足首にテーピングをし、事故者のザックの中を空にしゆっくり下山。14：20駐車場に着く。この夜は近くの温泉に泊まり、宿で湿布をもらい張る。翌日帰宅後、整形外科を受診。骨折と判明した。ギブス固定、全治3週間。

No. 15 雨でぬれた粘土質の登山道で足を滑らせ滑落

【事故発生日時】2019年8月20日（火）8時ころ【山域・山名】白山

【事故者】女性 70才、

【受傷の程度】右腕を少し打撲、右脛を少し打撲

【事故の概要】予定より早く6：10小桜平避難小屋を出発。時に雨が激しく降ったり、薄日が差したりしたりの天候。楽々新道下山中、事故者は8時ころ雨でぬれた粘土質の登山道で足を滑らせ谷川へ30m程滑落した。少し急な下り坂でロープが張ってある箇所、仲間から「ロープにつかまるといいよ」とアドバイスがあったが、ロープにつかまる前に滑落した。事故者を救出後、負傷がないことを確認し自力下山した（12：55）。地面が腐葉土状態で大きなけがなくて幸いだった。

▲反省・指摘など

- ・ロープが張ってある箇所は注意喚起が必要。リーダーは勿論、メンバーも。

議題2、各会代表者会議へ遭対部からの報告（案）の審議（略）

議題3、その他

遭対担当者の名簿と救助隊要員の名簿・連絡網の配布の確認。

女性部 第5回女性のつどい 報告

8月29日(木) 県連事務所において第5回女性のつどいを開催いたしました。参加者は【二宮、(みどり)、田中(若駒)、木村(あつた)、服部(くらら)、稲垣(同志会)、河村(春日井峠)】の6山岳会6名で、9月21日・22日に行われます交流山行のコースの確認と当日の役割分担を話し合いました。

「使わないものは失われる！」

「山筋ゴーゴー体操講習会」を12月に開催します。

今回も、石田先生から直接筋肉維持に必要なトレーニングについて様々な方向からの講演及び実技の講習をしていただきます。先生に直接指導していただけますので、経験の無い方も是非ご参加ください。また、県連初のサポーター、木村さんのサポーターデビューでもありますので、男女問わず沢山の方にご参加いただきたいです。会員外の方も参加可能です。

【開催日時】2019年12月15日(日) 午後1時30分～午後4時00分

【開催場所】労働会館東館ホール(名古屋市熱田区沢下町9-7)

【講師】石田良恵先生・サポーター

【持ち物】動きやすい靴、ヨガマット(テントマット、バスタオル等でも可)、飲み物

【会費】労山会員800円/会員外1,000円

登山時報のすすめ

登山時報を読んで30数年になり、はじめに見る記事は各県の山ミニガイド、それからおすすめ山道具を見る。また連載物とかもあり内容が盛り沢山あります。以前のものだと、「知的登山のすすめ」、「私の登山、ワタシの登山」など。会報えつらん室などは、各地方連盟、会の会報の表紙が載っていて、それを見るとその会の雰囲気表れているようです。また、過去の登山時報を見るとその時々、環境問題への取り組み、事故への会の取り組み、個人会員制の問題などが掲載されていて、参考になる記事が多い。労山の全国連盟の動きなどもわかります。まだ、手にしていない人が入れば、手に取って読んでみて下さい。

理事長 佐藤 和男

【編集後記】前号と今号では、各会の充実した夏合宿の模様をご紹介します。是非ご一読ください。9月も下旬なのに暑い日が続きますが、そんな中でも秋は静かにやってきています。今日はススキの穂が黄金に輝いているのを見つけました。紅葉は少し遅れるそうですが、鮮やかな色づきに期待したいところです。(事務局 井土)

Schedule 2019

10月			11月			12月		
1	火		1	金		1	日	
2	水		2	土		2	月	氷雪技術講習打合せ
3	木	女性のつどい⑦	3	日		3	火	
4	金		4	月		4	水	
5	土		5	火		5	木	女性のつどい⑨
6	日		6	水		6	金	
7	月		7	木	女性のつどい⑧	7	土	
8	火		8	金	遭対担当者会議④	8	日	
9	水	教育担当者会議⑦	9	土	全国登山学校交流会	9	月	
10	木	理事会⑬	10	日	全国登山学校交流会	10	火	
11	金		11	月	氷雪技術講習理論②	11	水	
12	土		12	火		12	木	理事会⑯
13	日		13	水		13	金	冬山合宿遭対連絡会議
14	月		14	木	教育担当者会議⑧	14	土	氷雪技術講習実技①
15	火		15	金		15	日	
16	水		16	土		16	月	
17	木	自然保護部会⑥	17	日		17	火	組織担当者会議⑧
18	金		18	月	氷雪技術講習理論③	18	水	
19	土	全国クライミング講習会	19	火		19	木	教育担当者会議⑨ 自然保護部会⑧
20	日	全国クライミング講習会	20	水		20	金	
21	月		21	木	組織担当者会議⑦ 自然保護部会⑦	21	土	理事会⑰
22	火		22	金		22	日	
23	水		23	土		23	月	
24	木		24	日		24	火	
25	金		25	月	氷雪技術講習理論④	25	水	
26	土		26	火		26	木	
27	日		27	水		27	金	
28	月	氷雪技術講習理論①	28	木	理事会⑮	28	土	
29	火		29	金		29	日	
30	水		30	土		30	月	
31	木	理事会⑭				31	火	

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com